

凡 例

- ◆ 年次は原則として、我が国の動向については和暦(長期的・将来的な記述に関しては西暦も使用)を、世界の動向については、西暦を使用しています。
- ◆ 和暦における元号は「昭和」については原則として記述しています(一部図表では省略)が、「平成」については原則として省略しています。
- ◆ 「年」とあるものは暦年(1月から12月)を、「年度」とあるものは会計年度(4月から翌年3月)を指しています。
- ◆ 企業名については、「株式会社」の記述を省略しています。
- ◆ 補助単位については、以下の記号で記述しています。

1,000兆 (10^{15}) 倍	…	P (ペタ)
1兆 (10^{12}) 倍	…	T (テラ)
10億 (10^9) 倍	…	G (ギガ)
100万 (10^6) 倍	…	M (メガ)
1,000 (10^3) 倍	…	k (キロ)
10分の1 (10^{-1}) 倍	…	d (デシ)
100分の1 (10^{-2}) 倍	…	c (センチ)
1,000分の1 (10^{-3}) 倍	…	m (ミリ)
100万分の1 (10^{-6}) 倍	…	μ (マイクロ)

ただし、情報量の単位B(バイト)の補助単位に限り以下の記号で記述しています。

10億7,374万1,824 (2^{30}) 倍	…	G (ギガ)
104万8,576 (2^{20}) 倍	…	M (メガ)
1,024 (2^{10}) 倍	…	K (キロ)

- ◆ 単位の繰上げは、四捨五入によっています。単位の繰上げにより、内訳の数値の合計と、合計欄の数値が一致しないことがあります。
- ◆ 構成比(%)についても、単位の繰上げのため合計が100とならない場合があります。
- ◆ 引用している調査の概要は、本編の最後にまとめて、アルファベット、五十音の順に記述しています。
- ◆ 資料編において、出所が明記していない図表等は、郵政省資料によるものです。